P3-13-2 LEP薬剤が無効な月経困難症に漢方治療が有効であった50症例の検討

つくばセントラル病院
岡村麻子、長田佳世、柴田衣里、田中奈美、竹島紬

【目的】本邦における月経困難症の治療に、LEP薬剤（低用量エストロゲン・プロラグステチン配合剤）の使用が浸透しつつある。しかしながら、LEP薬剤を使用しても症状が十分に改善しない、あるいはLEP薬剤が内服困難な症例が少なからず存在する。それらの症例に対して漢方治療が有効であったか否かを検討した。【方法】過去3年間に外来を受診した、上記症状の女性50症例を対象に、LEP薬剤治療を望んだが吐き気や浮腫の副作用で内服できず外来を受診した32例（Yース配合錠6例、ルナペール配合錠LD26例）、LEP薬剤を内服したが、月経困難症の症状が軽快せず日常生活に支障をきたした18例（Yーズ配合錠6例、ルナペール配合錠LD12例）を検討対象とした。全症例がLEP薬剤内服前に漢方療法（NSAIDs）を服用し、効果を認めたLEP薬剤治療例を検討した。これらの場合を改善するために漢方医学的な随方療法によって治療を行った場合、症状が改善し、再度外来を受診した症例を20例、漢方療法を内服した後も症状が改善した症例を30例とした。【結果】LEP薬剤内服不可44例に漢方療法が補助的に用いられた症例では26例、漢方療法を内服した症例では7例であった。併用の薬剤は治療の機序により内服薬37例、外用薬7例であった。【結論】LEP薬剤が無効な症例に対して漢方治療が有効であることが示唆された。

P3-13-3 子宮内膜症例の背景と術中対応に関する検討

徳島 大
加藤雅志、毛山 糭、松井寿美佳、吉田加奈子、寄原 滋

【目的】腹腔鏡下手術時に、手術にて子宮内膜症を有する症例にしばしば遭遇する。今回、腹腔鏡下手術時に偶発的に発見された子宮内膜症を有する症例について、患者の背景や手術時の対応について後方視的に検討した。【方法】2013年1月から2014年12月の間に当院で子宮内膜症を伴う症例の中で腹腔鏡下手術を行った症例の詳細を検討した。【結果】症例にて術前治療を行った症例は35例中24例で、術前に手術時に行われた総合検討においても、術前治療を行った症例数は11例ではあったが、術中は子宮内膜症を有する症例の内診時に40例中14例、18例が認められた。症例にて手術を施行した症例は5例中3例、18例中6例で、症状の程度は術前検討にて改善されなかった症例が5例を占めた。【結論】術前に発症がみられた症例は術中での対応において著しく改善されなかった症例が少なかったが、術後に発症がみられた症例は術中での対応においてより改善されなかった。術後に発症をみた症例の内診時においても症状が改善されており、術後に発症がみられた症例は術前検討においても改善していなかった症例が多かった。【結論】術前に発症がみられた症例は術中での対応において著しく改善されなかった症例が少なかったが、術後に発症がみられた症例は術中での対応においてより改善されなかった。術後に発症をみた症例の内診時においても症状が改善されており、術後に発症がみられた症例は術前検討においても改善していなかった症例が多かった。

P3-13-4 低用量ピル（OC）の使用は日本人の乳がん発症リスクを増加させるか？当院における乳がん検査成績から～

対馬留里子女性ライフクリニック銀座
対馬留里子、市田美保、小林有紀、関根美香、石山尚子

【目的】近年、低用量ピル（OC）は避妊だけでなく月経困難症や子宮内膜症に対する治療薬として使われているが本邦でのOC服用と乳がんリスクに関する報告はまだ少ない。乳がん検診受診者の異常背景からの検討からOC服用が乳がんリスクとなるか否かについて検討した。【方法】2007年1月～2013年に当院で乳がん検診を受診した13,738名に対してインフォメーション・コンサントで得やすい状態でのOC服用の有無、症状、乳がん家族歴と乳がん発症の関連について調べた。【結果】低用量ピルを受診した13,738名中155名の1.3%の女性が乳がん（症例単位）乳がんを有しない12,223名を対照群とした。乳がん検診受診者の82.8%にOCの使用経験があった。3.ロジスティック多変数解析の結果、OC服用歴のある女性は発症経験のない人に比べ乳がんのリスクが低かったが有意ではなかった。4.対象女性を閉経後期に分けOC服用有無で分類したところ、閉経後女性ではOC服用歴の有無は乳がんの発症有無に相関がないかった。5.乳がんリスクはOC服用が有意の差が認められた。6.出産が乳がんリスクを減少させた。(p<0.05. OR: 0.68, 95%CI: 0.47-0.98) 7.授乳歴の有無、家族歴の有無と乳がんリスクには相関はなかった。【結論】2013年版の日本乳がん学会「乳がん検診ガイドライン」では「OCの使用は乳がん発症乳がんリスクを増加させる可能性がある」（エビデンスグレードLimited-suggestive）としており我々のデータがその根拠となっている。今回の分析ではOC使用により閉経前女性の乳がんリスクは増加しないという結果となった。今後は乳がん症候群に関しても検討を加え、より安全なOC服用につなげたい。